

第3回福井県文化芸術推進会議 議事録

日 時 令和7年9月30日（火）15:00～17:00

場 所 福井県庁 6階 大会議室

出席者 委 員 ※座長（県職員）を除き、五十音順・敬称略

青山直弘、朝倉由希、浅野桃子、小畑善敬、坂本紫崖、嶋田浩昌、
玉森慶三、友田堅七郎、長谷光城、畑中容子、水井推山、湊七雄、
中村忠嗣（座長）

オブザーバー

山口秀明（福井市）

事務局

福井県 高校教育課 参事（教科・生徒支援） 橋本貴志

義務教育課 課長 谷口大介

生涯学習・文化財課 課長 志尾武章

文化課 課長 松田健二

他

1 開 会

- ・座長あいさつ

2 議 事

（1）議題1：ふくい文化創造センター 事業進捗と今後の方針について

[事務局]

- ・（資料1に基づき説明）

[中村委員（座長）]

- ・ただいまの説明について、ふくい文化創造センターを設置している福井県文化振興事業団の玉森委員に補足説明をお願いしたい。

[玉森委員]

- ・4月1日にふくい文化創造センターができたばかりであり、まだまだ周知が足りておらず、応募の少ない事業もある。
- ・アートプロジェクト助成金については今年で4年目を迎え、認知が進んでいる。やっとアーツカウンシルとしての体制が整い、専門スタッフが各地へ出向いて情報収集や伴走支援を行う活動が本格スタートした。
- ・先日、青山委員と一緒に「湊の芸術祭」と「さばえまつり」、福祉施設へのアーティスト派遣の様子を見に行ってきたが、現地へ行くと、様々な気づきを得ることができる。

- ・文化創造センターが一番重要だと考えているのは、「アート思考」の普及・浸透と、それを担う人材の育成。これを大きく掲げながら一つ一つの事業を実施していくことで、成果を出していきたい。
- ・さきほど「課題」にもあがっていたように、小学生のための音楽鑑賞会は応募が少なかったが、一方で学校に出向いて行っている「ドラムサークル」などは大変人気がある。子供向けの事業にニーズがないのではなく、ハーモニーホールに来ていただくための交通手段など、運営面での課題が明らかになってきたと考えている。
- ・文化振興事業団は、ご存知のようにハーモニーホールの指定管理者であり、音楽の専門人材はいるが、美術関係については、まだまだ専門的に入っている分野も少ない。この辺のことも踏まえながら、来年度に向けて取り組んでいきたい。

〔中村委員〕

- ・それでは、ふくい文化創造センターの事業進捗および今後の方針について、委員の皆様からご意見・ご提案などお伺いしたい。

〔畑中委員〕

- ・ふくい文化創造センターが扱う「文化」の範囲を教えていただけないか。

〔玉森委員〕

- ・ジャンルは特に考えていない。県内で行われている文化芸術活動は全て扱う範囲に入ると考えている。ただ、先ほども申し上げたとおり、福井県文化振興事業団には音楽以外の専門人材はいないので、その辺りの課題はあると思う。
- ・また、伝統芸能や歴史的な景観などの分野については、主体的な取り組みは行っていない。

〔畑中委員〕

- ・了解。観光の視点からだと、どちらかといえば食文化や伝統芸能などの分野と密接な関係があるのでお聞きした。

〔浅野委員〕

- ・私自身、アートキャリア講座をはじめ、センターの活動に多く関わっているが、センターで任用している地域おこし協力隊の中には、横浜トリエンナーレに深く関わってきた方や、青森県で芸術文化活動を実践していた方もおり、いわゆる「美術の専門家（研究者や作家など）」ではないかもしれないが、全国から素晴らしいスタッフが集まっているという実感がある。この会議の委員の皆さんも含めて、一緒に考えながらセンター事業を進めていく必要があると思っている。
- ・もう一点。センターができたと言っても新しい場所ができたわけではないので、形のないものを周知するのは難しい部分があると思う。センターの活動に参加している様々な人が告知・広報に協力してくれるような仕組みがあるといいと思う。

[玉森委員]

- ・アートプロジェクトに関して言うと、4月に採択団体が参加するキックオフ・ミーティングを開催しており、12月には研修会、3月には活動報告会を開催して、県民に活動のPRを行っていく。
- ・また、地域おこし協力隊のメンバーが独自に始めた「アート茶会」を月に1回、福井駅前のPLAYCEで開催している。毎月、30～40名が自主的に参加してくれていて、将来的にはこのように自由に集える「場所」も課題になってくると考えている。

[坂本委員]

- ・私は書道をやっており、今年、AOSSA1階で展示会を開催したが、駅に近いので外国の方や観光客など様々な人が見て行ってくれた。また、体験コーナーも大変好評だった。先ほど「場所」の話があったが、福井県はどこに行ってもうこのような活動をする場所がなかなか無いのが課題だと思う。
- ・また、今年はアートプロジェクトの助成金を受けて例年より充実した活動をすることができた。これからも活動を続けて、広く県民の皆さんに文化芸術に触れていただけるようにしたい。

[湊委員]

- ・4月からふくい文化創造センターがスタートしたということで、明るい空気の中で動いている雰囲気を感じている。
- ・さらに欲張って言うと、福井県民に向けた取組みももちろん必要だが、この先の展望を考えたときに、やはり日本の福井だからこそできるアートのコンテンツを世界に売っていくことも考えてほしい。
- ・そう考えた時、やはり「映像」がよいのではないか。センターのディレクターに就任した渡邊さんも映画関係の仕事をしてこられた方だし、福井ではかつて「ビデオビエンナーレ」が開催されていた歴史もある。映像を強みとして重点的に取り上げていくという方向性が良いのではないかなと思う。

[朝倉委員]

- ・ふくい文化創造センターが年度初めに立ち上がり、本当に活動が広がってきたと思う。人が配置されることによって可能になったこともたくさんあると思うので、これからますます楽しみだと思っている。
- ・私はアートプロジェクト支援に深く関わっているので、福井の仕組みについて県外で話すこともあるが、「福井が何か変わってきた」という噂は全国的にも広がっている。「アーツカウンシル・ネットワーク」という全国組織があるが、福井もそこに参画していける形が整ったということとは非常に嬉しい。

- ・ただ、センターとしてやるのがたくさんあるので、それを広げていくということが難しいとは思っている。だからこそ、関わる人みんなが自分事として、当事者として広げて、発信していくようになると良いと思っている。
- ・センターができたことを発信するというよりも、それによって様々な文化活動が身近になったということを県民一人ひとりが感じ取って、それを共有していけるような、例えばハッシュタグで拡散するような仕組みがあると良いと思う。
- ・先ほどの説明の中にあった「芸術文化人材データベース」について、登録も増えており、ジャンルも多様で非常に面白いと思ったが、このデータベースを県民が直接見ることは少ないのではないかな。データベースの人材を活用するのに奨励金を使えるという情報もあまり知られていないと思う。
- ・せっかくのデータベースが形骸化しないようにしないためには、どう活用するかが重要。「奨励金を活用して、こんなことが実現できた」というような市民団体などの声が紹介される場がウェブ上にあると良いと思う。

〔青山委員〕

- ・ふくい文化創造センターのスタッフにお会いしたが、しっかり担い手育成ができる人材が集まっていて心強いと感じた。センターが手掛けている事業についても知らないことが多かったので驚いた。
- ・センターの方とも相談して、せっかく作ったセンターなので広く県民に活用していただけるように広報していけたらと思っている。

〔嶋田委員〕

- ・私達が一番センターに期待しているのは、「文化芸術によるクリエイティブな経済の活性化」であり、これまで一定の層に企業向けの文化芸術セミナーに参加いただき、大きな成果があった。一方で、これから先をどうするかがなかなか大変だと思っている。
- ・これまでのアートと企業の関係というと、企業はスポンサー的な立ち位置でアートの支援を行ってきたが、やはり企業活動の中で文化芸術がどう活かされるかということがはっきりしないと企業としてはモチベーションが上がっていかない。
- ・私自身もその部分をまだうまく説明できないので、10月のセミナーにはぜひ参加させていただきたいと思っている。ここから先、企業活動に何か直接いい影響あるような取り組みを一緒に考えて実施していきたい。

〔小畑委員〕

- ・今ほどの企業の活動もそうだが、やはりまだセンターについて知られていない部分があると思う。

- ・センターの様々な事業には、何かしら皆さん関わる部分があると思う。事業を継続していくためには、やはり入り口の部分を入りやすく、わかりやすくして、潜在的な意識を持っている様々な人を巻き込んでいくことが大事だと思う。
- ・企業なら経営者なり中枢の人間が重要になるだろうし、学校の場合も何か入り口で誰に関わってもらうかを工夫していくと良いと思った。

[友田委員]

- ・私自身は歴史博物館に勤めているが、ふくい文化創造センターの事業で「場所」として文化施設を使っていただくことはできると思った。例えばミニライブを開催するとか、研修をしていただくとか、そういった協力・連携はできる。
- ・また、先ほど美術の専門家という話があったが、県立美術館には美術専門の学芸員がいるし、歴史博物館にも様々な分野の学芸員がいる。昨年のアートキャリア講座にも学芸員が講師として参加していたので、そういった形の協力・連携もできると思う。
- ・博物館法が改正され、地域への貢献が重要になっている。若者の育成というのも本当に大事だと思っているので、ぜひ今後も連携していきたい。

[長谷委員]

- ・今ちょうど長崎で国民文化祭をやっているが、もう一つの障害者芸術・文化祭と両輪でやっている。それを福井で考えたときに、障がい者芸術の方はまだまだ十分でない。今後、ふくい文化創造センターの活動をどのように充実させていくかを考えたとき、障がい者芸術をもっと深めてもらおうと思う。もし、今、福井で国民文化祭を行うとしたら、障がい者の方はどうするのという状況。
- ・福井県でも障がい者アートのレンタル等の制度を作ろうという話が以前あったが、今、他県で障がい者の作品を借りようと思うとすべて謝金が必要になっている。一方で福井県にはまだ何のシステムも無い。ぜひ、センターで障がい者の芸術文化に関する取組みも考えていただきたい。

[水井委員]

- ・私達、県文化協議会の仕事は文化芸術の底辺の部分だと考えている。越のルビーアーティストのようなプロの方がいる一方で、そこまでのレベルでなくてもいいからアーティストを呼びたいという場合などには、文化協議会がもってこいだと思うし、各分野の指導にも当たることができる。
- ・今、文化部活動の地域移行の問題もあると思うが、この辺りも文化協議会としては、これから活動できる分野だと思っている。
- ・ただ、どうしても会員の高齢化は進んでいて、考え方も古い。少しずつ新しい取組みをしながら変えていこうとしているが、例えばアートプロジェクト助成金なども、使い方がわからず、壁を感じている人が多い。文化協議会としてもこれから勉強させてもらって、会員に「こういう活動になら活用できるよ」と指導できるようにしていきたいと考えている。

〔福井市 山口局長（オブザーバー）〕

- ・ 福井市にも文化協会があるが、音楽や絵画、写真など身近な文化芸術の活動をされている高齢の方が多く、市民の文化活動をどう支えていくかを課題と感じている。
- ・ 部活動の地域移行の話があったが、学校現場と地域の文化活動がこれまで切り離されていて、川ができていた状態の中で、どうやって両者の接点を作って、学生さんにアプローチしていくかが今後大事になっていくと思いながら、日々仕事をさせていただいている。
- ・ また皆さんのお知恵をいただきながら進めていきたい。

〔事務局〕

- ・ 本日ご欠席の松谷委員からのご意見をご紹介します。
- ・ 「応募が少ない事業があった」ということが課題にあがっていたが、周知方法をしっかりと見直してほしい。子どもたちや先生に届く前に、どこかで情報が止まってしまっている可能性も考えられる。
- ・ 小学生のための音楽鑑賞会については、個人的に参加してもらうよりも学校単位で参加してもらう仕組みの方がより多くの子どもたちに体験機会を与えることができる。個人参加の場合、どうしても保護者の関心の高さに左右されるし、お休みの日は各家庭でいろいろ用事があり、それらが優先されてしまうと参加できない。学校単位であれば、子どもたちにとっては友達と参加する楽しみもあるし、先生にとっては仕事から離れて音楽を聴くことで癒しの時間になるのでは。
- ・ アーティストバンクの利用促進については、単発で鑑賞機会をつくるだけでなく、各企業で定期的に、例えば月 1 回や年に 1 ～ 2 回音楽やアートに集中する時間をつくるような取組みにつなげられるとよい。

（２）議題２：企業の文化活動促進研究会 中間報告について

〔中村委員（座長）〕

- ・ 今年４月から、県、文化振興事業団、福井商工会議所が連携し、県内企業６社にも参画していただく形で、企業の文化活動を促進するための研究会を設置・運営している。
- ・ 本日は、この研究会の座長でもある朝倉委員から、研究会の検討内容について中間報告をしていただき、皆様と意見交換をさせていただきたいと思う。

〔朝倉委員〕

- ・ （資料２に基づき説明）
- ・ 今回中間報告としてまとめたのは施策の方向性は、まだこれを実施すると決まったわけではなく、こういうことを考えていくべきではないかという論点を整理したという段階。
- ・ 委員の皆様からご意見をいただければ、今後の研究会の議論に反映する。また、「これが足りていないのでは」というようなご意見もいただければありがたい。

[中村委員]

- ・ただいまの中間報告について、ご質問やご意見・ご提案などあればお願いしたい。

[湊委員]

- ・先ほども「アート思考」という話があったが、端的には「思考インフラへの投資」だと言える。これまでの課題解決型のアプローチでは、その課題の中でしか出てこないのに対して、アート思考による斜め上から降ってきたようなアイデアが、新しい時代、産業を作っていく。
- ・90年代のメセナでは、アーティストや表現者は弱い立場にあるから、その活動を支えるのは良いことだという、ルネサンス時代のメディチ家のようなイメージが根底にあった。
- ・今も企業や行政は「アーティスト支援」という言葉を使っているが、一方的な支援ではなく、地域社会も恩恵を受ける部分があるので、言葉の使い方を変えていくことも必要だと思う。
- ・クリエイティブ産業は世界のGDPの中でも3~5%を占めており、今後もさらに膨らんでいくだろう。福井がこの先、経済的に豊かな地域になっていくために、雇用創出などの面でクリエイティブ産業は高い可能性がある。
- ・ふくい文化創造センターが今実施している文化芸術活動へのサポートのあり方とは違う、もっと広いイメージを共有できるようになればよいと思う。

[朝倉委員]

- ・「福井県文化振興プラン」の中には「メセナ」という言葉が入っているが、この研究会の中ではあえて使っていない。メセナが間違っていたわけではないが、やはり時代の移り変わりの中で「古い」「お金があった時代だからできたこと」というイメージがついてしまっているので、それを払拭したい。
- ・クリエイティブ産業を作っていく、企業自体が文化に触れることによってクリエイティブになっていくということについて、踏み込んだ提案ができればよいと思っている。

[湊委員]

- ・先ほどの中間報告の中でも、そのような新しいトレンドは感じ取れた。
- ・やはり我々は言われたことをちゃんとやるという教育を受けてきているので、突拍子もないことをするのが苦手。「明日からクリエイティブになりましょう」と言われてもなれない。
- ・では、例えばある企業が文化芸術活動を支援する基金に一定額を寄付したら、その企業がクリエイティブになるかということ、そうではない。
- ・やはり、いかに企業と文化芸術の関わりを増やしていけるかが重要だと思う。

[小畑委員]

- ・極端な言い方かもしれないが、企業の経営者は従業員の幸せを一番に願っていると思う。
- ・その上で自社の社員のことを考えてみると、目前にある仕事の中の課題に向かって一生懸命やっているが、社会活動はあまり行っておらず、バランスが崩れていると思うことがある。

- ・文化活動に触れることはバランスをとることにつながると思うので、ぜひ企業は従業員に社会を知らせる機会を増やすべきだと考える。
- ・バランスの取れた人間がたくさん生まれるということは、企業の底力が増していくことであり、企業にも大きなメリットがある。そういうことも、この研究会の報告書に入れていただくとよいと思う。

〔長谷委員〕

- ・「今後の予定」に書かれている2点（アンケート、先進的取り組みを行う企業の視察等）が非常に重要だと思う。
- ・県内企業も様々な取り組みをしているので、その実態をしっかり把握する必要がある。また、文化芸術の支援をしている全国的な企業、清水建設の清水基金などに、どういう意義があると思って文化芸術活動への支援をしているか、どういう効果が出ているかなど話を聞いて、県内企業に知ってもらいと良いと思う。

〔嶋田委員〕

- ・やはり企業が文化活動に取り組む意義について、あやふやなままになっているので、もう一度足をしっかり固めて、少しでも多くの企業に納得感を持って取り組んでもらえるようにすることが、まず必要だと思う。

〔畑中委員〕

- ・観光連盟は会員が200あまりいるが、この研究会の構成メンバーのような大きな会社は少ない。小さい企業の皆さんに何をしてもらえるのか、というところが疑問ではあった。
- ・とはいえ、旅行は今、「観光地を見て、美味しいものを食べて、お買い物して」という時代から、「自己を見つめ直す、心を整える時間」みたいなものが求められる時代になってきており、福井にとって文化が非常に重要になっていると思う。
- ・現実的に今、連盟で何ができるかを考えたとき、企業の皆さんに情報発信をしていくということが一つだと思う。観光連盟の「ふくいドットコム」というホームページは「恐竜」「伝統工芸」「食」などトップページにカテゴリを設けている。例えばその中に「文化芸術」というカテゴリを1つ作って、県内の文化芸術の情報を集約するということであればすぐに協力できると思う。
- ・また、企業向けにということであれば、観光連盟の総会が年2回あり、そこには各企業のトップが出席する。今年度から総会の後に交流会を実施しているので、例えばコンサートをするとか、企業の先進的な取り組みを紹介するなどといったことは考えられると思う。

〔浅野委員〕

- ・先日、三井化学に勤めている知り合いが富山の高岡市で開催しているクラフトフェアに参加しているというので見に行った。三井化学は素材の会社なのだが、クラフトフェアの中で会社の部活

動の発表をしていて、すごく緩やかな文化芸術との関わり方で、資金的な支援とは全く別の形のおもしろい事例だと思った。

- ・その企業の素材を使って新しい取り組みやコミュニティなどが生まれていることも知り、私も聞いていてすごく楽しかったし、勉強になった。

[玉森委員]

- ・先日の企業向けの文化芸術セミナーの中で、講師の方が明確におっしゃっていたのがアート思考とデザイン思考の違い。デザイン思考は消費者を起点、アート思考は自分を起点とする思考であるとのことであった。社員自身がどう楽しいかという視点を企業活動に活かしていくと、それがクリエイティブ経済につながるのだと思う。
- ・10月の企業向けセミナーでは、アート思考を企業活動の中で実際活用した事例を聞いていただけるので、ぜひご参加いただきたい。

[湊委員]

- ・過去に福井県の事業で若者の海外武者修行を支援していたことがあり、その時に支援した人の中には、現在、世界的に活躍されているアーティストもいる。
- ・自分たちの税金で行ったサポートによって、素晴らしいスターが生まれているのに、福井の人はそれをあまり知らない。だから関わっているという感覚がうまく育っていかないのだと思う。
- ・福井の人は奥ゆかしいので、あまり成果を自慢しない傾向があるが、もっとアピールしていけばよいと思う。

(3) 議題3：福井県文化芸術推進会議における学生WGの設置について 他

[中村委員（座長）]

- ・前回会議の際、皆さんにご提案させていただいたとおり、学生の若い意見をこの会議に取り入れることを考えている。事務局から説明する。

[事務局]

- ・（資料3に基づき説明）

[中村委員（座長）]

- ・学生WGの設置について、ご意見等ありましたらお願いしたい。

[浅野委員]

- ・私自身、大学の教員をしているので、素晴らしい機会をいただいて大変ありがたいと思っている。WGに直接参加できる学生は数名だが、その学生たちが大学に戻ってきて、他の学生に与える影響も大きいと思う。

〔中村委員（座長）〕

- ・本日予定していた議題についての議事は終了したが、この機会に意見交換など行いたいテーマがあればお願いしたい。

〔水井委員〕

- ・今日お話しがあった取組みは素晴らしいことばかりだと思うが、福井市から遠い地域まで効果を及ぼすことはなかなか難しいと思う。県文化協議会の運営をしても、高浜町やおおい町の人にはなかなか福井市まで出てこられない。そういう地域を盛り上げるための取組みが少し足りないのではないか。
- ・県文化協議会には、全ての市町の文化協会が入っているので、もう少しうまく活用して、例えば県民総合文化祭に嶺南の人にも出てもらえるような工夫をしている。ぜひ協力をお願いしたい。

〔朝倉委員〕

- ・この福井県文化芸術推進会議は「福井県文化振興プラン」の進捗を確認していく場でもあると思っている。今回はふくい文化創造センターが立ち上がって動き出したということがあったので、それが議題の中心になるのは仕方ないと思う反面、それだけではないと思う。
- ・また、ふくい文化創造センターは福井県文化振興事業団内に置かれている性質上、これまでの経緯もあって、どうしても音楽中心になりがち。美術館、博物館の議論が少ないと感じたし、嶺南を含め市町との連携の部分が見えていない。その辺が確認できないとプランの進捗も不安になる。
- ・限られた時間の中での会議なので議題を絞る必要はあるが、全体への目配りができる機会もきちんと確保すべきだと思う。

〔事務局〕

- ・福井県文化振興プランの進捗管理については、3月の推進会議の中で報告をさせていただきたいと思っている。
- ・また、報告するだけでなく課題も明らかにして、県だけでなく委員の皆様にも持ち帰ってもらって次の動きにつなげていくための会議にしていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

〔中村委員（座長）〕

- ・本日の議事はこれですべて終了した。委員の皆様には円滑な議事進行にご協力いただき、感謝する。

3 閉会